

# JIS

## 一酸化炭素用自己救命器 (COマスク)

JIS M 7611:1996

(2008 確認)

平成 8 年 11 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

## まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによってJIS M 7611-1985は、改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正では、平成2年6月1日の第399回標準会議において議決された“日本工業規格における国際単位系(SI)の導入の方針”に基づく、SI単位への移行、及びJIS Z 8301(規格票の様式)が平成8年7月1日に改正されたのに伴い、それとの整合化を図る必要性が生じたために改正を行うものである。

---

主 務 大 臣：通商産業大臣      制定：昭和36.8.1      改正：平成8.11.20

官 報 公 示：平成8.11.20

原案作成協力者：社団法人 日本保安用品協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 資源エネルギー一部会（部会長 福原 元一）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課(〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1)へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 一酸化炭素用自己救命器 (COマスク) M 7611:1996

## Self rescuer for carbon monoxide

1. 適用範囲 この規格は、炭鉱、鉱山などの坑内において、火災爆発などによって発生した一酸化炭素(以下、COマスクという。)が存在している箇所を突破、脱出するときに着用する一酸化炭素用自己救命器(以下、COマスクという。)について規定する。

備考 この規格の中で { } を付けて示してある単位及び数値は従来単位によるものであって、参考として併記したものである。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これら引用規格は、その最新版を適用する。

JIS C 1602 熱電対

JIS K 8150 塩化ナトリウム(試薬)

JIS K 8541 硝酸(試薬)

JIS K 8576 水酸化ナトリウム(試薬)

JIS K 8951 硫酸(試薬)

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、次による。

a) 呼気抵抗ピーク値・吸気抵抗ピーク値 COマスクを付けて呼吸したとき、又はCOマスクに呼吸模擬装置を接続して作動させたときの呼吸抵抗は、図1のように時間とともに変化する。この場合、 $A_n$ 点を呼気抵抗ピーク値、 $B_n$ 点を吸気抵抗ピーク値という。

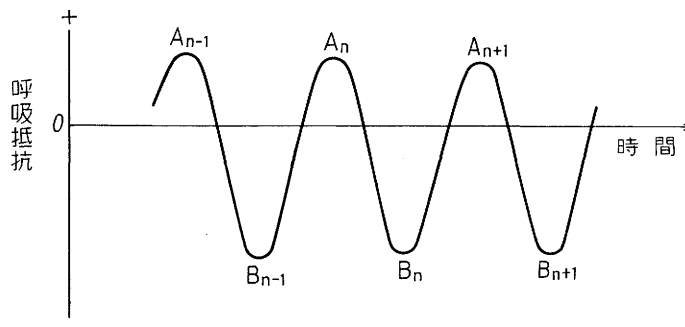


図1 呼吸抵抗の変化

b) マウスピース 口唇と歯茎との間に挿入し、歯でくわえ、口で呼吸するCOマスクの部品。口片ともいう。

c) ノーズクリップ マウスピースと併用するもので、鼻を挟み、鼻孔から吸気が入るのを止めるもの。鼻挟みともいう。

4. 種類 種類は、直結式口片形とする。